

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 4月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	1270200551		
法人名	有限会社 ユタカ		
事業所名	グループホーム 花梨の郷		
所在地	〒262-0012 千葉県花見川区千種町111-1 (電話) 043-250-1500		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	〒113-0021 東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年3月5日	評価確定日	4月20日

【情報提供票より】 (19年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	15 人
非常勤	0 人
常勤換算	14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	2 階建て、 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,764 円		

(4) 利用者の概要 (2月 20日現在)

利用者人数	16 名	男性	5 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平山病院・ちぐさ診療所
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

・入居者の今までの家庭生活をそのまま継続し、その人らしく過ごしてもらえ
る様日々努力しています。
・利用者には、できるだけ屋外に出て頂く(散歩・外出・家庭菜園・プランター
の草花の世話等)よう心がけています。
・南向きで日当たりもよく、閑静な住宅街に立地し、建物内のレイアウトや居
室の中等は家庭的に過ごしやすいように色々工夫されています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の接応・入居者の尊重(個人別・ペース)・自分で出来ることへの配慮等 が、前回課題として指摘されていましたが、全部改善されております。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の改善点を、日常の打合せ・会議で話し合いし、日頃のケアに反映す るよう努力しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議開催の重要性は認識していますが、現状できていません。只、関 係者に声をかけ運営推進会議を開催するための基盤づくりの1段階として、今 年の秋祭りに地域の方々の招待を企画しています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へは毎月丁寧・詳細に報告(暮らしぶり・健康状態等)し、又面会時に意見 を聞き出し日頃のケアに反映するよう努めています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の各種活動・行事に意欲的に参加し、又幼稚園との交流の結果幼稚園の 散歩経路になったり卒園児が訪問したり等、着実に地域の一員として根ざして います。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在のところできていません。	○	花梨の郷らしさを築くことを日頃から意識されていますので、地域の中で暮らすことの視点を入れた理念構築を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼及び会議の度に理念の共有を心がけ、実践しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会のお祭り・神社の草取り等に積極的に参加しています。又幼稚園との交流の結果、施設前が園児の散歩経路にもなっており、地域との交流が着実に根ざしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価等の改善点を、日常の打合せ・会議等で話し合いし、日頃のケアに反映するよう努力しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ会議を編成するまでい至っていません。	○	第1ステップとして、今年の秋祭りに地域の人を招待する予定です。それを実施すると共に、今後地域包括センターにも声をかけていき、取りあえず運営推進会議の開催を目指されますことを望みます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回相談訪問員の訪問を受け入れたり、運営上の不明点を地域包括センターに電話相談しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個人の暮らしぶり・健康状態等を「花梨の便り」で個別に届けています。字も大きく、きめ細く書かれていますので、家族も見やすいと思います。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員が面会時等に家族の意見・不満・苦情を聞くようにして改善に努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	個人的・身体的理由で離職しているのが現状で、職員が離職する際は、毎月の報告書で家族に知らせています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修計画は、出来ていません。	○	人材育成のためのマニュアル作り・ステップアップのための研修計画作成と実施が早急に望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	若潮ロータリーの福祉施設連絡会の勉強会に参加し、同業者との交流を図っています。	○	経営者層ばかりでなく、これからは現場スタッフ層も交流できる構想もあるので、それに期待します。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に事前の荷物搬入時に家族と一緒に訪問して頂いたり、行事への参加などで職員や他の利用者馴染んでいただけるように配慮されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しております。お互いが協働しながら和やかな生活ができるように場面づくりや声かけをしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけ、把握に努めています。言葉や表情などからその真意を測ったり、確認するようにしています。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、職員全員からケアプラン意見収集用紙に記入して頂いています。意見を収集し、アイデアを取り組みに反映し、又面会時を利用し家族からの意向も反映しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直ししています。状態が変化した際には検討・見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在のところまだ多機能性を生かした支援を行うまでに至っていません。	○	事業所の多機能性を地域で生かす取り組みの検討と実施が望まれます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意向を適切に伝え、連携し対応されています。必要に応じて医師とご家族が話し合える場の提供もされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、訪問看護と医療の連携を密にし、終末期に向けての支援に努めるよう努力されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	会議の場で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底をはかっています。また、研修や勉強会への参加を多くし、育成に努めるよう努力されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決めるようにしています。食事準備(調理・配膳等)や後片づけ等役割を見だし、一人ひとりの力が発揮できるように支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入られる方、一日に2回入られる方等、利用者の希望に応じていつでも入浴できるように支援されています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩だけでなく、ボランティアの協力も得て日本舞踊・民謡・カラオケ・マジック等を楽しんでいます。又日常生活の中でその方の出来る事・出来そうなことを職員は把握し、自分のことは自分で行うことで達成感を感じ意欲につながるようにと支援されています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	初詣・お花見・紅葉見物・地元のお祭りその他外食会やピクニックと、家族の協力もあり外出の機会は多く工夫されています。歩いて散歩に出られない方は車椅子で散歩に行かれています。又あまり外出したがい方は前庭で日光浴をしながらお茶会や食事会など企画され色々と工夫をされています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常 施錠はしておらず、外出傾向にある方の行動把握に努め、玄関のベル・下駄箱のセンサー取り付け・暖簾の風鈴取り付け等利用者に気づかれぬよう色々工夫しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者に対する避難方法の説明と演習などは行っていません。また地域の人々との協力関係も構築されていません。	○	来年度、2階外階段(スロープ)の取り付け検討・消防訓練年2回実施目標・救命救急の講習会開催予定等がありますので、大いに期待しております。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録しています。摂取量が少ない場合には本人の好む食べ物や水分で補っています。利用者の状態に応じた食事形態や摂取介助を行い食べこぼしに対するフォローもさりげなく行われています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が落ち着いて過ごせる様、光・音(音楽)に配慮しています。又生活感・季節感を意識され、四季折々の飾りつけや折り紙・行事写真等飾り付けをしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れたなじみの物・好みの物の持込は勿論、個室には洗面台・電話取り付け・ベランダに自分で植木を置けるよう配慮・工夫がされています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。